

VOS

VITALITY, ORIGINALITY AND SERVICES

長岡技術科学大学広報

MAR. 2005 No.126



おいなる夢と数々の思い出を胸に

翔け!長岡技大生!!



卒業・修了特集

CONTENTS

- 学長告辞..... 2
- 卒業・修了を祝して..... 4
- 贈る言葉 /
卒業・修了にあたって... 6
- 退職にあたって..... 19



学長告辞



自ら動く人間になろう

長岡技術科学大学長

小島 陽

卒業生・修了生の諸君、おめでとう。

本日、ここに、平成16年度の卒業式・修了式を迎え、学士、修士そして博士の学位を得た諸君に心からお祝い申し上げます。また、諸君をこれまで長年にわたり育て、支えてこられたご家族に御礼とともにお祝い申し上げます。

留学生の諸君。故国を遠く離れ、言語・文化の異なる地での生活、学習には大変な苦労があったかと思えます。諸君の努力に敬意を表すとともに、さらに研鑽を積んで、それぞれの故国の発展に力を尽くすことを期待します。

さて、諸君が本学を卒業・修了するこの年、この一年間は、大学にとっても、世の中にとっても大変動の年となりました。日本各地に多大な被害をもたらした台風、水害を始め、昨年10月23日には、未曾有の「新潟県中越地震」もありました。また、年末には「スマトラ沖大地震」もありました。「新潟県中越地震」では、不運にも、本学でも一部の教職員・学生諸君が被災しました。改めてお見舞い申し上げます。特に、地震のあまり経験のない留学生諸君はさぞかし驚いたことと思えます。しかしながら、諸君の冷静沈着な行動、また、勇気ある行動には目を見張るものがあり、たくましさを感じました。今回の災害を受け、教職員・学生一丸となって立ち向かっ

た経験は、将来、必ずや「災い転じて福となす」となることを確信しています。

また、昨年4月には、大学の法人化がなされました。国立大学にとっては、百年に一度と言われるほどの大改革が行われました。大学はそれぞれ、独立した法人として位置付けられ、自主性・自立性が大幅に拡大し、大学運営を機動的・積極的に行うことが可能となりました。本学も独創力の増強、“考え出す大学” - Ideas University - を全面に押しだし、大学としての存在感を社会にアピールしていかなければなりません。

本学の基本理念は、「新しい学問技術を創り出すことにあると同時に、独創的な能力のある人材を養成すること」にあります。この基本理念のもと、本学の教職員一同は日夜、研鑽に励み、諸君とともに、研究に励み、諸君の教育に精励しました。この結果、本日、ここに胸をはり、諸君をそれぞれ送り出す運びとなりました。本学が社会から評価される一つは、いかに「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者」を養成したかにかかります。これから社会に巣立つ諸君、また、大学院へ進学する諸君の今後の活躍に期待します。

長岡技術科学大学 大学歌

中村千栄子 作詩
岩河三郎 作曲

天と地の恵み豊かに 信濃川
越の夾と いよも 悠悠
いよ友よ 若き瞳とありよ
遙かなる源泉たどり
漕ぎだせ 友よ
果て知れぬ 英知の海へ
大いなる 技術の海へ

紫の雲を 開きて 東山
雪の朝に やがて 明明
いよ友よ 若き生命と燃やせ
新しき 技学の 炎もて
彩水 友よ
日本の夜明りの空と
健やかな 世界の空と

あ あ われら
長岡技術科学大学

本学の基本理念のもとに学んだ、諸君にお願いがあります。

「自ら動く人間になろう」

日本の教育は、「使われる人間」しか育ててこなかったのではないかと、警鐘されています。学校は誰かに、あるいは何かに使われるためのトレーニングの場にすぎなかったのではないか。おとなしくか、要領よくか、有能にか、ともあれ、我が身を使われる人間としか、思い描けない日本人ばかりを育ててきたのではなかったか、などと、ある作家は言っています。

人を動かす能力を持っていながら、人に動かされる人間は寂しいことです。社会人になれば、難問が次から次へと押し寄せてきます。個々ばらばらで、動かされることしか知らない人間には、どれも手も足もでないことになります。

自分から動かない、動きたくない、動けない人々は傍観を決め込むより他にありません。いつか自分を託せる力強いカリスマが現れるだろうと待ち望むことになります。

人が人を動かす人間社会の原理はこれからも変わらないでしょう。しかし、諸君は、本学で学んだ経

験を生かし、自力で仕事や、やりたいことを創り出す自信をもち、「自ら動く人間」として、難問に立ち向かう人間になるよう心がけてください。

努力した者が適正に報われ、易きに流れる者は得るものが少ないという社会規範の定着が必要であると思います。諸君が、本学のVOS精神に則り、努力、勤勉、責任感を持った、新しい文明を拓く技術の担い手として大成されることを祈念して祝辞といたします。





卒業・修了に寄せて

理事・副学長
西澤良之

卒業、修了おめでとうございます。

平成16年度は、本当に大変な年度でした。京都のえらいお坊さんに、この年を象徴する漢字を選んでいただいたところ「災」であったことは、ほとんどの方が知っておられると思います。

7月13日を中心とする豪雨と水害、その後の度重なる台風の本土直撃、そして、中越大地震など大災害が次々と長岡技大キャンパスを含んだ新潟地方を襲いました。（国際的にはさらにスマトラ沖地震津波がそれに追い討ちをかけました。）

もちろん、実家や下宿先・アパートなどが大きな被害をこうむった人もあり、自身が怪我等を負ったケースもあったとは思いますが、いずれにせよ、皆さんが、おおむね無事に、この卒業・修了という一つのゴールに辿りついたことを心からお祝いしたいと思います。卒業・修了生一人一人にとっては、感慨にはひとしおのものがあ、生涯忘れられないのではないのでしょうか。

地震からの復旧過程において、改めて、大学の使命について自分なりに再確認をしてみました。「教育・研究」の推進こそが、その中心をなすものであることはいうまでもありません。「教育」についていえば、立派な卒業生・修了生を数多く巣立ちさせることが、学生本人に対する大学の責任の履行であるとともに、社会契約上の債務履行にほかなりません。

大学が、募集要項などに掲げた本学の教育目標に照らし、また自ら定めた、教育課程・履修基準等を充足しているかを精査した結果、その基準を充足しているものと認めたこと、それが卒業・修了に他ならないわけです。

無論、「基準の充足」には様々なものがあると思います。十二分に満たしたもので、条件どおりでクリアーしたもので、追試等により、いわばぎりぎり認められたものなど千差万別といってもよいでしょう。

しかし、いずれにせよ、大学としては、卒業・修了認定を通じて、「品質保証」をしたのだと言

わざるを得ません。商品の製造であれば、工場から品質検査を経て出荷された場合、出荷時の「品質保証」ということになりますけれど、大学の場合、事柄はやや複雑になります。

大学教育の目的が、単なる知識や技術の習得（知識技術の陳腐化が急速に進む今日、それ自体極めて大変な営為ということにはなりますが）、に止まらず、『人格の陶冶(とうや)』といわれる『知的、道徳的及び応用的能力を展開させること』（学校教育法第52条）を含んでいるからです。

大学における「教養教育」はまさにこの教育目的の達成をめざして行われているものであり、「教養教育」を通じて培われる『知的、道徳的及び応用的能力の展開』能力は、「自己教育力」とも言われるとおり、一人一人がその生涯を通じて自ら学び取っていくという性格を併せ持っているものです。

卒業・修了を通じて大学が行っている「品質保証」には、理論的には、少なくとも、生涯をかけて自分の人格を高めていくための基本的方法と基礎知識は習得していることの「保証」を含むことが求められていると考えざるを得ません。しかし、正直に言えば、胸を張って「イエス」と答えられる大学がどれだけあるか、大変心もとないのが現状です。卒業生・修了生の一人一人が、大学で学んだことの上に、自分自身で磨きをかけてもらわなければならないというのが、本音であるとともに、事柄の本質に一番近いと思います。

品質保証の代わり、というつもりではありませんが、私の大学卒業時に恩師がクラスみんなにくださった言葉を、はなむけの言葉として贈ります。

常に戦略的課題を自分に与える。時代に適合しない過去は捨てる。変化に食らいつく。脳細胞を多面的に刺激する。教育者の風貌を持つ。加点主義で人間を見る。マイナス情報を重視する。

何かの折に参考になることを期待します。



「共生の時代」を生きる

長岡市長
森 民 夫

長岡技術科学大学を卒業・修了されるみなさん、おめでとうございます。学業生活の節目を迎えられるみなさんに、心からお祝いを申し上げます。

昨年は、スマトラ沖巨大地震・大津波に代表されるように、大自然が私たち人類にその猛威を見せつけた年でした。長岡市においても、7・13水害と10月23日の中越大震災の2つの自然災害による大きな被害が発生し、今なお市民生活に深刻な影響を及ぼしています。みなさんの中にも、中越大震災で被災された方がいらっしゃると思います。謹んでお見舞い申し上げます。

幸い、長岡市はいち早く応急復旧の段階を終え、中越大震災からの本格的な復興に向け全力を挙げて取り組んでいるところです。こうした大がかりな復興は長岡のまちにとって実は3度目のこととなります。長岡の歴史を振り返ってみれば、かつてまちは北越戊辰戦争と第二次世界大戦の2度にわたり戦禍に遭い、その都度、ふるさとをこよなく愛する先人たちの手によって復興を成し遂げ、今日の繁栄を築き上げてきました。復興の原動力となったのは「米百俵の精神」です。この「米百俵の精神」は長岡市民の間に脈々と受け継がれており、青春の一時期を長岡市で過ごされたみなさんも、ご存じではないかと思います。私は、教育の要諦を説いた「米百俵の精神」が、「人間はいかに生きるべきか」という問いを私たちに発しているような気がしてなりません。

21世紀の幕開けともいうべき時期を長岡で過ごされたみなさんの多くは、これから日本各地に、あるいは世界各国に旅立つことでしょう。みなさんが旅立つこの21世紀は「共生の時代」と言われています。言うまでもなく、共生とは単に自然環境との共生ではありません。人がそれぞれに違いがあることを認めながら、お互いに関心を持ち、理解し合おうと努め、手を取り合い支え合って一緒に生きることもそうです。

思えば、20世紀はテクノロジーが飛躍的に進歩した時代でした。日本においては、高度経済成長

期を経てバブル社会へと続く中で、私たちの生活は格段に便利で豊かになりました。しかし、便利さや物質的な豊かさを追求するあまり、大切な何かをなござりにするきらいがあったのではないのでしょうか。近年、日本国内で、また海外で、かけがえない人命を軽んじるような行為があとを絶たせません。

テクノロジーという言葉を読み替えるならば、科学技術に関する「知識」と言うことができます。その知識を活用するのは私たち人間です。そして人間には豊かな心があります。これからの時代、大切なのはやはり心の豊かさです。他者を思いやる心を持っているならば、その人は仕事においても日常生活においても豊かな人生を送ることができるでしょう。

みなさんは「考え出す大学」で日々の研鑽を通じて最先端のテクノロジーを身につけるとともに、先生方、友人そして長岡市民と交友関係を培ってきました。今後もさらに精進を積み重ねながら、「共生の時代」の中で活躍されますよう、長岡市民は応援しています。どうか、みなさんも折に触れ長岡のことを思い出し、長岡市を訪れてください。共に生きる仲間として。



贈る言葉



継続こそ力

宮田 保 教
(機械系長)

卒業生、修了生の諸君、おめでとう。昨年は、自然の力の偉大さと人間の力の対比を実感させられる年でした。生活基盤を破壊する自然現象と、速やかな復興に示された人間の英知・技術のすばらしさ。諸君は身につけた技術・科学をもって、自然と社会に立ち向かっていくことになります。

長岡技術科学大学の教育のモットーは Vitality, Originality, Services (VOS) であり、機械系では、実践 (Active), 英知 (Basic knowledge), 創造 (Creative) を目標に教育を行い、皆さんはこれらの素養を身につけ社会に巣立っていくわけです。そして、さらに

Globalな思考法を身につける必要もあると思います。一方では、変化する社会に対応していくために、自分で自分を鍛え、新しいことを自身に学習させていく必要も生じます。ヘレン・ケラーは「安全は多くの場合迷信で自然には存在しない。長い目で見れば、危険を回避することが、危険に身をさらすことより安全とはいえない」といっています。この言葉は、立ち向かっていく姿勢の重要性を示していると考えられます。これからも、自分自身を甘えさせず、自分自身をトレーニングさせ続けてください。

先の言葉の次に、「人生は恐れを知らぬ冒険」と続きます。冒険の先には、それまで気づかなかったものがあるはずです。是非、人生の冒険を楽しんでください。

卒業・修了にあたって 学部



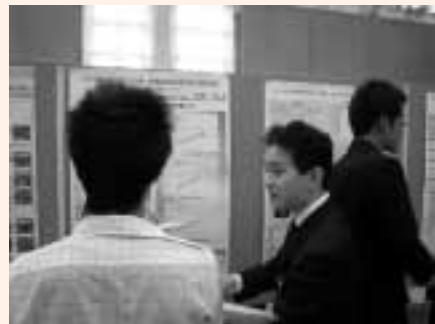
卒業にあたって 考えたこと

丸山 俊之
(機械創造工学課程)

いよいよ私も学生を卒業し、社会人となる日が近づいてきました。思えば小学校入学以来、16年も学生でいたことになります。ところで「学生の本分は学業である」という言葉があります。そこで、自分の16年を簡単に振り返ってみようと思います。

でも問題がありました。そもそも「本分」の意味がよくわかりません。そこで携帯辞書を使って調べたところ、「尽くすべき義務」であることがわかりました。なんだか堅苦しく、「本分」と言う言葉を嫌いになりそうですがそれは置いて、私は今まで特に問題なく学生生活を送ってきました。レポートの締め切りは破らなかつたはずだし、年中留年を意識していたわけじゃありません。そう考えると学業を本分としてこられたのかな、と思います。でもそれは、自分でそうし

ようと行ってきたわけではありません。しかしこれからは社会人。これまでのようにはいかなないと聞きます。不安はもちろんありますが、よく耳にするように、これは自分を成長させるチャンスと考えるように努め、考える人になってがんばろうと思います。高専時代の友人の半数はすでに働き、本学での友人の大半が大学院へ進学するのに対して、自分は遅い気も早い気もします。でも、このタイミングでの卒業が私にとって最良であると思い、満足しています。そして自分にそのきっかけを与えてくれた本学、そして長岡市に大変感謝しています。



研究発表会にて

卒業・修了にあたって 大学院修士課程



技大修了！学生終了！

栗田 孝
(機械システム工学専攻)

私が秋田高専から技大に編入して4年が経ちました。高専では機械工学科、技大では機械システム工学課程(専攻)と機械を9年間勉強してきたことになり、随分長く機械を勉強してきたなと思います。

学生生活を振り返ってみると、一番大変だったのは学部3年の時の単位取得だったと思います。毎週追われるレポートと試験の殆どが必修教科のため、投げ出すことができず苦労しました。そんな苦しいレポートも一緒に解いてくれる友達がいたからやっていけたと思います。また、思い出されるのが、学部4年の一大イベントである実務訓練です。約5ヶ月間を長岡から離れ、会社に行って社員と同じ部屋で学習するというのが、私にとっていい刺激になりました。学校とは違い周りの人すべてが忙しい雰囲気を出しているせい

か、忙しくない自分も何かやらねばと学習意欲を掻き立てられました。

こんな学生生活とも別れを告げる時が来ました。春になったら私も社会人です。技大で学んで来た色々な経験を活かして新しい生活をスタートさせたいと思います。在学している皆さん、大学生活は苦しいこともあるとは思いますが、短いと思うので途中で投げ出さずに頑張ってください。きっといい経験になると思います。

最後に、まだ修士論文が残っていますが、先生方、研究室の皆さん、お世話になった皆さん、本当にありがとうございました。



合同ゼミ合宿にて(筆者は一番右下)

卒業・修了にあたって 大学院修士課程



学生生活を振り返って

貫井 純一郎
(創造設計工学専攻)

長岡に来て早いもので4年になります。自分が思っていた以上に学部2年、修士2年、計4年間はあっという間に過ぎていったような気がします。高専出身の私は3年生から編入したわけですが、学部の頃は、講義、実験、レポート、試験、また講義...を繰り返す学校中心の毎日を送っていたように思います。修士に入ってから、楽な思いはもちろんすることができず、毎日夜遅くまで研究を行ってきました。こんな灰色な学生生活を満喫できたのも、技大周辺が「無」だったからかも知れません...。とはいうものの、このような生活で沢山の友人、先輩、先生方に出会えたことは私にとって大切な財産になりました。就職や試験、研究等で多くの人にご迷惑をかけましたが、現在の自分が

あるのも研究室の仲間を始めとする多くの方々の支えがあったからであると改めて思い、感謝の気持ちでいっぱいです。

長かった学生生活も終わり、4月から社会人になりますが正直不安でいっぱいです。しかし、ここ長岡の地で学び、経験したことを生かして、日々成長し、充実した生活を送れるように頑張りたいと思います。

最後にいろいろと心配やご迷惑をおかけした先生方、研究室の皆様、友人、そして今まで育てくれた両親に感謝します。本当にありがとうございました。



花火大会にて

贈る言葉



人生は短く芸術は長し

高田 雅介
(電気系長)

卒業・修了おめでとうございます。皆さんはこれから就職、あるいは、大学院修士課程、博士課程へ進学されますが、今後の更なる飛躍を願っています。

平成16年10月23日の新潟中越地震では、皆さん、さぞや恐ろしい思いをされたことでしょう。また、数日から一週間の停電を経験したことによって、災害時における電源、燃料源の確保が如何に大切であるかを痛感されたのではないのでしょうか。

一方、同じ時期に、これからのエネルギーである水素を使った燃料電池のニュースが新聞、テレビ等で大きく報道されました。技術は確実に進歩しています。

将来はガソリンではなく、水素を燃料とした自動車が走るようになることでしょう。これから世の中が急速に変化するのに伴って必要とされる技術のごく一例が燃料電池であり、他にも解決しなければならない多くの技術的課題が山積しています。これらの技術を支えるのは、皆さんです。若いときには「やりたいこと」、「やらねばならないこと」が沢山あります。しかし、「光陰矢の如し」という言葉があります。また、「人生は短く芸術は長し」という言葉もあります。上手に時間を使い、技術の海へ漕ぎだしてください。

本学から巣立った皆さんが社会において、いかに活躍しているかということが長岡技術科学大学の価値を決めます。皆さんのご活躍を心から期待しています。

卒業・修了にあたって

学部 留学生



日本での思い出

インタン・ハフィナス
(電気電子情報工学課程)

日本に来て以来、5年目になりました。入学式が昨日だったかのようにあっという間に技大の生活はもうすぐ終わります。

この5年間の日本での生活は色々なことを経験することができ、私にとって大変貴重なものでした。マレーシアで1年半ぐらいの日本語の勉強を終えて、不安を抱きながら日本に来たころのことを今でもまだ覚えています。授業、生活、日本語、人間関係などが心配だったし、寂しさも感じていました。しかし、先生方や友達の皆さんがとても親切でしたので、すぐに日本の生活に慣れました。

私は佐世保高専を卒業してから、技大に編入学しました。長岡で最初の冬が来て、雪が積もるので本当にびっくりしました。佐世保にいた時は、雪が降ったけ

どすぐに溶けました。雪が積もるのは大変美しく感じています。そして、留学生のスキー旅行も参加し、初めてスノーボードの経験をしました。

もう一つの思い出は中越地震でした。生まれて初めてのこの地震の経験は正直言うと今でもまだ怖いんです。その時、一週間ぐらい避難生活をしてとても大変でした。

4月からマレーシアにある日系企業に就職することになりました。帰国後日本で学んだことを生かして国の役に立つ人間になりたいと思います。この2年間大変お世話になった先生方、同級生、研究室の先輩たちのみなさん、心から感謝しています。

最後に後輩たちへ。4年間はあっという間です。悔いのない学生生活を送り、胸を張って卒業してください。



内富研究室

卒業・修了にあたって 大学院修士課程



たくさんの思い出と決意

菱川 満
(電気・電子システム工学専攻)

本学に編入学したのは高専を卒業した20歳の時でした。初めて長岡に来たときの事を今でも昨日の事のように覚えています。本学の男子寮に入った時部屋の狭さと古さに愕然とし落ち込みました。

しかし、新しい環境でも寮の友達という存在のおかげで楽しく生活を送ることができました。なかでも楽しかったのは寮風呂でした。寮風呂には友達と誘い合っ出て出かけ、お風呂につかりながら一時間はあっという間、気づけば二時間経っており慌てて部屋に戻った事もしばしば。また、学校行事にも多く参加しました。特にクラスでは球技大会に熱くなっておりソフトボール部門で毎回参加しました。成績の方は、チームワークの良さで優勝を飾ったことも。

大学を卒業し大学院に入学すると、学部の際と生活

が大きく変化しました。本学の寮のほうも大学院では入寮対象とならず、家賃を稼ぐためのアルバイト生活と大学院での本格的な研究生活の両立となりました。そんな忙しい生活の中でも息抜きとなったのはやはり友達や研究室の仲間存在でした。

こう振り返ってみると多くの人たちに支えられながら、ここまでこられたと実感しています。長岡に来た事が決して無駄にならないよう、来年からの新生活を全力投球で頑張っていこうと思います。

最後に、今までお世話になった先生方や、研究室の皆様、友人そして両親に心より感謝致します。本当にありがとうございました。



球技大会ソフトボール優勝(筆者上段右から3人目)

卒業・修了にあたって 大学院修士課程



声を大にして!!

馬場 孝順
(電子機器工学専攻)

猪突猛進してすいませんが、私は九州男児です。最初は言葉が通じず枕を濡らす夜もありました。しかし、私の努力が実り、皆さんに九州弁が通じるようになりました。今では友人が九州弁をリズムカルに、そしてテクニカルに使いこなすほどです。私が言いたいのは、諦めず努力してくださいということです。

本題に入りますが、個人的な意見として、皆さんには友人をたくさん作っていただきたい。学部の際にはテスト前よく図書館に集まり勉強をしていました。自分一人ではわからなかったことが、みんなで考えたり、教えてもらうことでテストを乗り切ることができました。学内だけではなく、学外まで視野を広げ、もっとグローバルに交友関係を広げてみてください。私の口

癖は「長岡って狭かねえ...」です。

もう一つ、みなさんに日記を書くことを強くお勧めします。後で読み返した時に恥ずかしいくらい本気で書くのがポイントです。もちろん手書きでお願いします。そして書き続けて半年たった時に読み返してください。ここで口酸っぱく言っている私ですが、このところどころか、2年間休みをいただいております。

最後に、お世話になった皆様に心より感謝します。



Hip Hop仲間A HA(筆者は上段と下段左)

贈る言葉



予測すること

井上 泰宣
(化学系長)

修了・卒業おめでとうございます。本年度の修了・卒業生は、最も重要な時期での新潟中越地震で、化学系に限れば幸いにも人的および物的被害は比較的少なかったものの、地震に伴う様々な障害は相当のものであったと思います。それを乗り越え、無事修了・卒業に至ったことを心よりお祝いいたします。

この度の地震は、まったく予期せぬものでしたが、地震直後からの対応は、時間との競争でそれが的確でないと、後で取り返すのに多大な労力を必要とすることや、場合によっては取り返せないこともありました。しばらく経ってから、こうすれば良かったのにと反省

するところが多くあり、何がポイントかを予測し、素早く動くことが非常に重要であることを痛感しました。地震のような異常な事態が日常的に起こるわけではありませんが、今後不安定で、ますます競争的となる社会にあっては、次に起こりうるであろうことを予測することが特に求められると言えます。的確に予測できる能力がどのようにして養成されるかは、よく分かりませんが、単に経験だけでなく、何が重要かを絶えず考える癖を付けること、本人の持つ物事に対する価値観に根ざして、高い価値観を持つほど適切な予測性の能力が養われるように思います。諸君の在学中の本系での切磋琢磨において、そのような能力を十分に培ったと信じています。そのことを糧に社会に出て多に活躍されることを期待しています。

卒業・修了にあたって 学部



2年間を振り返って

福本 未紗
(材料開発工学課程)

高専の教授に本学を勧められ、入学したのが2年前の春。たった2年間でしたが、思い起こすと色々な事がありました。まず、親元を離れたのが初めてだった私は不安でいっぱいでした。しかし、日々の忙しさに追われていつの間にかその不安は消えていました。また、高専からの編入生が多いと聞いていたので、場所は変わるというのに変化のない生活を送ると予想していました。しかし、それは大きな間違いでした。高専の時以上に面白い人がいっぱいいて、そのおかげで毎日楽しく過ごす事ができました。3年生の時、実験やレポートの多さに苦勞した事、試験が同じ日に数教科重なってパニックになった事も今となっては良い思い出です。雪が積もったのを見て、感激したこともありました。そんな私も4年生になり、研究室配属されま

した。系長杯のソフトボール大会で優勝した事は今でも印象に残っています。今は卒業研究で忙しい日々を送っています。学生実験とは違い、新しい事をするというのは大変ですが、良い結果が出た時の喜びは忘れがたいものと感じています。春からは社会人としての新たな生活が始まりますが、この学生生活で得たものを活かしていきたいと思います。

最後に、最後まで見捨てず色々と助けて下さった先生方、研究室の皆さん、友人達、お世話になった全ての人々に心から感謝します。本当にありがとうございました。



研究室の旅行にて(湯沢高原アルプの里 2列目左から6番目が筆者)

卒業・修了にあたって 大学院修士課程



卒業にあたって

酒井 潤一郎
(材料開発工学専攻)

光陰矢のごとしとは良く言ったもので本学に入学してから4年が経ってしまいました。それも真面目に勉学に励んだ結果だろうと勝手に自分で解釈しています。今までの大学生活を見直すと、進学を何となく言っておいた方が良かったかなという単純な理由で決めてしまったせいでやりたいことが見つからず、研究室に配属されてからは悩む日々が続き、このまま続けていっても2年で終了することが出来るのか非常に不安になったことが思い出されます。そのような状況ですから修士論文研究をしても上手く行くはずは無く、かなり絞られていました。しかし、真剣にやればそれなりに何とかなるもので徐々に良い結果を出すことが出来るようになり、初めて「良い結果だ。」と先生に褒めていただいた日のことは忘れることが出来ません。大学

生活6年間で学んだことの中で大事だと思うことを一つだけ挙げると言われれば、真っ先に何事にも真摯な態度で取り組むことの大切さと答えるでしょう。皆さんも是非心のどこかに留めておいていただければと思います。

最後に研究室の指導教員であり、熱心にご指導いただいた五十野善信先生並びに河原成元先生、実験操作についてご指導いただいた風間武雄シニアテクニカルアドバイザー、下らない世間話から真面目なディスカッションまで付き合ってくれた研究室メンバーおよび今まで温かく見守ってくれた両親に深く感謝いたします。



研究室のみなさん

卒業・修了にあたって 大学院博士後期課程



学生生活を終えて

砂田 潔
(材料工学専攻)

3年前、私は社会人学生として博士後期課程に入学しました。私は電気化学工業株という会社で研究の仕事をしています。入学することが決まったのは4年前の9月頃の事です。ある日突然、上司から学校のパンフレットを渡されて博士号を取得することを勧められました。この時は既に、結婚もとくに済ませて子供までいました。安定した毎日を送っていましたので、今更大学院へ入学することなど考えた事ありませんでした。ただ職場を見渡してみても、学部卒の技術系スタッフは私ぐらいでしたから、会社が私に能力アップを求めたのも当然なのかも知れません。基本的に実験は会社で行いましたので、長岡で過ごす時間は少なかったです。それでも研究室の若い学生さん達と接すると、自分も若い頃に戻った気がしてとても楽しかつ

たです。有機合成実験から学会発表まで初めて体験することばかりで不安でしたが、竹中克彦先生や塩見友雄先生のお陰で様々な知識を身につけることができました。入学して良かったなと思うことは、自分に自信がついたことです。話は変わりますが、私の4歳の息子が英単語や漢字を覚えるたびに義父母が「末は博士か大臣か」という古臭い言葉を使います。でも博士なら誰でもチャンスがありそうですね。

塩見・竹中研究室の皆さん、ありがとうございました。就職活動の際にはぜひ電気化学工業株を選択肢に入れてみてください。よろしくお願いいたします。



2004年夏 パリでの学会発表を終えて塩見教授と共に

贈る言葉



常在戦場、 自分の頭で考えよう

松本 昌二
(環境・建設系長)

ご卒業、修了、おめでとうございます。

進路は就職、進学と異なるとしても、新しい場において自ら能動的に行動することが求められます。長岡は「米百俵」で有名になりましたが、実は長岡藩は「常在戦場」の精神 自己に厳しく他者に優しく をモットーとしてきたのです。

諸君にアドバイスしたいことは、「常在戦場、自分の頭で考える」ということです。学校や大学のように与えられる問題に回答を出すのではなく、自分で問題点、問題の所在を見つけ出す、自分で仕事を創っていくようにすることです。そのためには立ち止まってじっ

くりと「自分の頭で考える」ことを日ごろから習慣づけておきます。企業組織の中でいえば、上司・社長の立場になったとして考える、「大局着想、小局着手」という言葉があるように、考えることは最大限にして、まず小さな行動に出ることです。

2004年(平成16年)には世界や日本で多くの災害が発生し、新潟県は7・13水害と10・23中越地震に見舞われました。復興が一日も早く進むように願うところですが、改めて自然の驚異を感じないわけにはいきません。

環境問題がビジネスも含めて重要となっていくますが、自然の恩恵や災害、防災に対する感性も持ち続けてほしいと思います。

健康で、大いに活躍されることを期待します。

卒業・修了にあたって 学部



長岡で学んで

小野木 祐二
(環境システム工学課程)

卒業する今、学部生活を振り返ってみると本当に多くのことを「長岡」で学んだと感じています。

釣り部ではシーズン毎に寺泊港や柏崎港に釣りに行き仲間達と親交を深めました。単位互換制度を利用し、他大学で技大とは異なる刺激を受け勉強したこともありました。

卒論では中越大震災をテーマに市内の住宅200軒ほどにヒアリングを行いました。吹雪の中で現地調査に出かけたこともありました。その一方、心優しい住民のお宅で抹茶を頂き和んだこともありました。振り返ってみると今の私があるのは、技大でご支援頂いた多くの方だけでなく、「長岡」の方々にも様々なことを教えて頂いたからだと思っています。

これからも技大で学びみなさんに伝えたいことは、

せっかく「長岡」という地域に住んでいるのですから、この地域を思う存分味わってください。企業実習を自主的に行うとか、ボランティア活動に参加するとか、方法はいくらでもあると思います。これまでにない素晴らしい発見がきっとできると思います。そして長岡を離れる際にきっと懐かしく感じられるでしょう!

最後になりますが、長岡で学んだことを種に筑波でもより一層研究に励みたいと思います。研究室の皆さん、そして多くのご支援いただいた皆さん本当にありがとうございました。



研究室旅行 松本城にて

卒業・修了にあたって 大学院修士課程



目標を持って

大 都 亮
(建設工学専攻)

本学に入學してから6年が経ちました。大阪の工業高校から来た私にとって、4月に雪が残っていたのは衝撃で「ホンマにこんなところでやっていけるんか??」と思ったものです。

大学では勉強だけでなく部活もやると心に決めていましたが、勉強には非常に苦労しました。「大学に入れる器ではなかった」と思って辞めようと思ったこともありました。そんな私を救ってくれたのは友人や先輩でした。試験前になると図書館や自由閲覧室で夜遅くまで勉強に付き合ってくれました。試験勉強は大変でしたが、今となってはいい思い出です。

部活は野球部に所属していましたが、1、2年生の頃は人数不足で満足な練習ができませんでした。しかし、3年生のときに高専編入者が多く入部し、練習に

活気が生まれ、同時に「試合に出られなくなるかも」との思いから必死に練習しました。その甲斐もありチームが全国大会に出たときは正選手として試合に出ることができ、大学での一番の思い出となりました。

大学生活を振り返ってみると、途中で腐らず当初の目標が達成でき、自分で言うのもなんですがよく頑張ったかなと思います。春からは社会人になりますが何か目標を立てて頑張ろうと思います。

最後に、友人・先輩・後輩・先生の支えに感謝します。そして、大学院まで行かせてくれた両親には本当に感謝しています。ありがとうございました。



朝野球の一コマです。ちなみに私は前列右端です。

卒業・修了にあたって 大学院修士課程



アンインストール

長 澤 剛 太
(環境システム工学専攻)

オレがこの雪深い上富岡に舞い降りたのはいつだったか忘却しました。この4年間はtoo longで、かつtoo muchで振り返るのはもう嫌です。でも、振り返ることを恐れてはいけません。

テスラの「太陽は過去であり、地球は現在であり、月は未来である。」という言葉を皆さんに送りたいと思います。

学部生時代には隣室のマナーモードの音でさえ丸聞こえの学生宿舎に住まわせて頂き、入寮3日目でネコの鳴き声が聞こえてきたときにはインディアンテントになったことが昨日の出来事のように思い出されます。私もお返しに夢の島で拝借した主食をヘッドフォン不使用で視聴しました。そんなこんなでステキな寮生活を送ることができました。

研究室配属になってから僕の話し相手になってくれる心優しい学生がチラホラ現れるようになり、夢にまで見たキャンパス・ライフを満喫することができました。大抵の学生は訛りがあり、最初のうちは何を言っているのか訳が分からず、聞き直す勇気のない僕は適当に相槌を打っておりましたが、いつまで経っても慣れないなと思っていたら、実は大分自分の耳が遠くなっていることに気づいたのでした。歳はとりたくないものですね。

在学生の若人諸君、人生如何なる時も挑戦です。恐れることは何もありません。体当たりして砕け散っても、それもまた誉れです。未来は貴方達のもです。古狸は山に帰ります。有難う技大、さようなら長岡...



研究室のみなさん

贈る言葉



この一步は自分の決断で

宮内 信之助
(生物系長)

卒業・修了おめでとうございます。一つの世界が終了して、新しい世界が始まるこの瞬間が、大きな飛躍の時です。この一步は、自分の決断で跳躍して下さい。強調したいのは、決して他人の力で前に進まないことです。自分が選んだこの道を、いつも自分の決断で前に進むことを期待します。毎年3月に学生を送り出す季節を迎えますが、自分で決断したことは、決して後悔が生まれなことを、この時期私自身が確信するからです。この自分自身の決断が、困難な局面にあたった時、生きて来るはず。どんな局面にも前に進む力になるはず。

実は、この度の大地震も、私にとっては、自分が決断して選んだ土地に起こったと考えているのです。たまたま、自分に大地震が降りかかったのではなく、私自身、自分が呼び込んだものと思っています。その思いが、大いにこの度の地震に対処するはげみになりました。その結果大地震は私自身にとって、長いスパンで考えれば、きっとマイナスがプラスに転ずると確信しています。これを乗り越えた力は、言葉では表わされない力になります。自然災害ではありますが、それも自分が選んだ道に降りかかった出来事なのです。

卒業・修了も365日の中のある1日ですが、やはりまたとない飛躍の時です。多くの祝福と激励の言葉が与えられるでしょう。しかし、決断はいつも自分自身であることを私のはなむけの言葉にします。

卒業・修了にあたって 学部



2年間を振り返って

西川 智行
(生物機能工学課程)

高専の専攻科に行くことになっていたのをドタキャンし、技大に来て2年が経ちました。当時の彼女にも入学が決まるまで言いませんでした。

僕は技大に来るまで、神戸から出たこともなく、しかも旅行の経験も少ない人生でした。親元を遠く離れることに対して、「絶対無理！」と親に言われましたが、振り返ってみると生活面ではなんとかなっていたような気がします。出発前日に彼女が励まして見送ってくれたことをついこの前のように思い出します。その時、「いろんな面で大人になる」という漠然とした約束をしました。新潟での生活も終わりに近づき、約束が達成できたかどうかは分かりませんが、内面は成長できたのではないかと思います。まだ、こんなことを言っていて未練があるんだろうと言われるでしょうが、あり

ますよ、おおありです。でも、これも人生の1ページと言える時がくるはずですよ、おそらく。

「2年間を振り返って」と言われると、やはり4年の卒業研究が思い浮かぶでしょう。最近、卒論を書いていて気付いたことがあります。研究内容に興味を持って入った研究室だったはずなのですが、次第に卒業するための研究になってしまっていた気がします。卒業までの少しの間、原点に戻って実験に取り組めればと思っています。

最後になりましたが、技大での2年間で僕に関わってくださった様々な方々に感謝致します。



ソフトボール系長杯

卒業・修了にあたって 大学院修士課程



必死

沼前 貴志
(生物機能工学専攻)

皆さんは、必死に何かに取り組んだ事がありますか？部活動やサークル活動、アルバイト、趣味、ボランティア、研究など様々な事に必死に打ち込んだ経験があるはずですよ。

現在(2005年1月)私は、修了に向けて実験と修論の執筆を必死で行っております。実家暮らしで学校から遠いため3日に一度しか帰っていません、必死です。研究室の椅子は堅いので、連結しても良く眠れません。ですので、寝ないで必死に実験をしています。どうしても眠たくなる時は、エタロンモカと言う眠気除去薬を服用し作業をしています。栄養ドリンク(600円以上)も大好きです。本当に卒業したいのです。そのための必死です。

技大を卒業後私は、就職のために初めて新潟県から

飛び出し一人暮らしをする予定です。きっと、一人暮らしは楽しいでしょう。周囲から社会人として扱われ、人間としてもまた成長できるでしょう。結婚もしたいです。これらを、夢見ているからこそ、今の必死があります。

私がお伝えしたい事は、ただ我武者羅に行うのではなく、困難を乗り越えた先に夢を見て欲しいという事です。そうすれば、どんな困難でも乗り越えていけるでしょう。そして、大学を卒業した時には清々しい顔で門出を迎える事が出来るはずですよ。それが、私が皆さんにお伝えしたい事。現状を悲観せず努力と必死さでこれからの研究生生活を乗り越えていってください。



研究室の夏旅行にて

卒業・修了にあたって 大学院博士後期課程



9年間を振り返って

近藤 博明
(情報・制御工学専攻)

9年前、当時流行だった「バイオ」に惹かれ、長岡技術科学大学に入学しました。それほど深く考えての入学ではありませんでした。それがまさかこんなに長く、そしてこんな年齢になるまで「学生」をやるとは、思ってもいませんでした。

振り返れば、この9年間、本当に色々な事がありました。7ヶ月に及ぶ実務訓練、突然の学会発表、研究室旅行や飲み会。研究室の仲間と徹夜で麻雀したり、朝まで愚痴をこぼしながら飲み明かしたり。世界に目を向ければ、世界貿易センタービルへのテロは研究室に居るときに聞きました。実験中には中越地震も起きました。さすがに、これだけ長く学生をやっていると、研究室に居ることが普通になってきたせいか、ここ数年、記憶に残っていることには、大抵研究室が出てき

ます。研究室配属されてからは、研究室中心の生活でした。

ただ、そのことに慣れてしまい、とりあえず、研究室に居る、という時間が大変多かったように思います。研究にしても、遊びにしても、その時間を有効に活用できていれば…。在校生の皆さん、時間の使い方見直してみませんか？

最後になりましたが、私がここまでやれたのも、先生方や研究室の仲間のおかげです。色々な経験ができたのも、就職もせずに、傍から見れば道楽とも見られる、博士課程への進学を許してくれた両親のおかげです。本当に、ありがとうございました。



研究室旅行

贈る言葉



恒に，創造的であれ!

大里 有生
(経営情報系長)

長岡技術科学大学工学部の卒業及び大学院工学研究科の修了，おめでとうございます。大学という最高学府で学び，それぞれの専門分野で深い研鑽を積み，晴れて学士，修士，博士の学位を取得して新しい次のステップに歩み出そうとしている皆さんに，「恒に，創造的であれ!」の言葉を贈ります。皆さんは，今日の厳しい時代の中，これから世に出ようとしている若い技術者・研究者であります。本学は実践的・創造的能力を持つ技術者として皆さんを育成してきましたが，社会に出てからはこの能力を最大限に発揮し，人類の幸福や産業・社会の発展に貢献する新しい技術の開発，

学術研究の進展に創造的に取り組んでほしいと思います。持続的な産業・社会の発展にとって，新しい技術の創出，有益な人工物の創造，新しい価値を生み出すシステムの創成が恒常的に必要であり，そのためには，従来のものの改善や再組織化だけでなく，新たなものを創り出すという創造性が不可欠です。工学の技術者・研究者には，そうした創造力溢れる活動が特に要請されております。皆さんには，是非，社会に出てからも，仕事の面，研究活動において，恒に創造的であることを念願しております。そして，皆さんが必ずや最高学府の諸先生方を凌駕する「技の高さ」「智の深さ」をもつことができることを願って止みません。

皆さんのご健康，ご成功をお祈りするとともに，大いなるご活躍を心から祈念致します。

卒業・修了にあたって 学部



Give And Take

兼城 由紀子
(経営情報システム工学課程)

時が過ぎるのは早いもので，私もとうとう卒業を迎える年となりました。大学生活の中で学んだことは数多くありますが，その中で一番印象に残っているのが“Give And Take”という言葉です。

私は工業高校から本学へ進学したのですが，入学後，最初に苦戦したのが授業についていけないということでした。私は高校時代，普通科で習う内容を深く勉強してこなかったのが，授業の内容をなかなか理解することができませんでした。そのとき，私を助けてくれたのが友人や先生方です。知識の乏しい私に，土日にも，友人は勉強を教えてくれました。そして，そのときに言ってくれた言葉が“Give And Take”です。私が友人にしてあげられたことといえば，車出しをするぐらいでしたが，どのような形であれ，気持ちが大切

だと思います。例えば研究室でも，友人に資料作りを手伝ってもらったら，今度は自分が資料作りを手伝うとか，研究室の雑用を行うとか，そういったところから上手くバランスをとることが，良い雰囲気を作っていくと思います。そして，雰囲気の良い環境が，仕事の進捗に繋がります。社会人になっても，この“Give And Take”を忘れず，頑張りたいと思います。

最後に，私が無事卒業を迎えることができるのも，多くの先生方や友人，家族の支えがあったお陰です。本当にどうもありがとうございました。



東京での打ち合わせ

卒業・修了にあたって

大学院博士後期課程 留学生



人生は学ぶ！

ヘイディ・ビスバル
(材料工学専攻)

私が長岡に来て早や6年、本当にあっという間だったように感じます。この間に多くの友人に巡り会い、楽しい大学院生活を送ることができました。ここで書きだしたら用紙がいくらあっても足りない程の経験をしました。学内では留学生会や、ベネズエラ協会、研究活動、また、学外ではホームステイやダンス、文化紹介等です。これらの活動を通じて様々な経験や友人を築くことができました。特に、ホームステイは、日本の文化や日本人の考え方を学ぶ大変貴重な経験になったと思います。この6年間で得たことは一生涯私の大きな財産として残ることと思います。

これまでの経験をふまえて私が言えることは、「人生の醍醐味は学ぶことだと」ということです。私のこ

れまでを振り返っても、学んだことはどれも現在も生きており、現在の私を形成する上でかかせない事ばかりです。新しいことだからこそ始めたい、学びたいと私は思います。どんな状況においても学べることは必ずあると思います。私は常に成長し続けます。皆さんも止まることなく成長し続けて欲しいと思います。

長岡を離れることに一抹の寂しさを感じますが、4月からの新しい人生に向けて精一杯頑張りたいと思います。

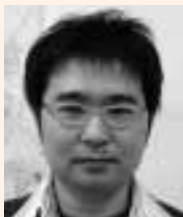
最後になりますがお世話になった友人、先輩、そして先生方に感謝の意を表します。



COE国際学会懇談会

卒業・修了にあたって

大学院博士後期課程

「たまごっち」から
「ヨン様」まで太田 敦史
(エネルギー・環境工学専攻)

新幹線が越後湯沢にさしかかると一面真っ白でした。「ああ、川端センセイはこのことを言っていたのか」と納得して長岡駅に降り立ちました。「たまごっち」が流行した年のことでした。今でこそ当たり前前の消雪パイプに面食らった記憶があります。

その後、長岡では学生宿舎、深沢、大島、と転々と過ごしてきました。独りで生活し始めてから、「自己と対峙」する時間を多く持てたと思います。博士課程に進学し同期がいなくなってからはなおのことです。元来、思い詰め性分の私は自己嫌悪の迷路に入り込み、自信を喪失してばかりでしたが…。しかし、苦しみを味わうことで他人の気持ち、境遇を少しばかり思いやることができるようになった気がします。大学生活を終えるに当たってというテーマからは外れる気もしま

すが、偽らざる気持ちです。そして「ヨン様」の今、そんな長岡での生活も終止符を打ちそうです。

中越地震やスマトラ地震など、災害が絶えません。残念ながら戦乱も然りです。多くの人々が暮らす都市で、できるだけ多くの方が幸せになれるように力を尽くすのが都市計画だとするならば、研究室の皆には傷ついた人、弱い立場にいる人、そして自分の身近な人の気持ちに思いを巡らす想像力を逞しくして欲しいと願わずにはいられません。とても難しいことです。私も才能の無さに辟易しながら苦悶する日が続きそうです。皆さん、お世話になりありがとうございました。



角館にて(研究室旅行)

贈る言葉



自信をもって！

小山 旬子
(むつみ会会長)

卒業生、修了生の皆様、ご卒業おめでとうございます。むつみ会を代表して心からお祝いを申し上げます。昨年は突如として襲った大地震に、不安な日々を送ったと思います。家族がいる私達でも心細いのに、気候、風土が違うあなた達はどんなに辛かったことでしょう。そんな時、国は違って留学生同志が助け合っている姿を見て、勉学だけではなく、地球人としても立派に生きてくれると確信しました。それから、インドネシア沖の地震によって、日本人も含む非常に多くの犠牲者が出ました。復興には決して道のりが楽なものではありませんが、美しい島を取り戻す為に、支援、応援、励ましを続けてほしいと思います。

一週間に一度開く「むつみ相談室」はいろんな話題

で盛り上がりました。子供の学校相談、体調、引越し等、時には恋や結婚のなれそめやら、本当に楽しく、私達スタッフも若い頃に戻れて嬉しくなりました。入学した頃、頬を赤く染めていた少女が、卒業する時には美しく成長しており、これからどんな道を進み、どのような人生が開けるのかと思うだけで、私の胸は熱くなります。

四月からは社会人として第一歩を踏み出し、将来のはるかな道に向かって旅立とうとされています。皆さんの歩まれるのが学問の世界であっても、実社会であっても、安穩な道ばかりではないでしょう。人生には喜びもあれば、忍耐を強いられるような事も沢山あります。しかし、ここ長岡で学んだことがきっと役に立つでしょう。未知の挑戦には「自信」を持つことが第一です。それでは皆様方の今後の活躍に期待し、ご健康と、ご多幸をお祈り申し上げます。いつかお会い出来る日をむつみ会一同楽しみにしています。

贈る言葉



新しい門出を祝して

磯部 広信
(同窓会会長・燕工業高等学校勤務)

卒業・修了される皆さん、おめでとうございます。同窓会を代表して心からお祝いを申し上げます。そして同時に、長岡技術科学大学同窓会の正会員になられたことにも心からお喜び申し上げます。

同窓会の主たる事業は、同窓会名簿の発行です。本学も開学以来29年が経過し、同窓会会員数も九千人を超えました。同窓生は日本国内にとどまらず、世界の第一線で活躍しておりますが、その同窓生の橋渡しをする名簿が、転居先不明等で多数返送されてきております。転居された場合には、同窓会までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

さて、この度卒業・修了される皆さんは、研究を進める途中で思いがけない天災に見舞われたことにより、より感慨深くこの日を迎えられたことと思います。幸

い、大怪我をされた方はいないと伺っていますが、様々な影響があり、困難を極めたのではないのでしょうか。苦勞して研究をまとめた皆さんに、惜しみない拍手を贈ります。また、留学生の方々は特に、異国での被災、ご自身の不安はもちろんの事、故郷のご家族のご心配は大変なものだったことでしょう。是非とも今後元氣にご活躍され、安心させてあげて下さい。

これからさらに研究を進める方も、社会へ出る方も、それぞれに、震災を乗り越えることができた自分、厳しい状況下で他人を思いやることができた自分を誇りとして下さい。また、様々な形で受けた恩を忘れず感謝の心を持って過ごせば、困難にぶつかった時にも自分が進むべき方向を見つけやすいでしょう。

良くも悪くも、社会は猛烈な速さで変化しています。その変化に流されず、「技大出身」であること、卒業・修了までに助けて下さった方々の気持ちを忘れず、それに恥じない生き方をしていって下さい。

皆様のこれからの人生が充実し、悔いのないものになるよう、心よりお祈り申し上げます。

退職にあたって

ありがとうございました。

応力(stress)の測定・解析とその解消法

栗田 政 則 (機械系 教授)

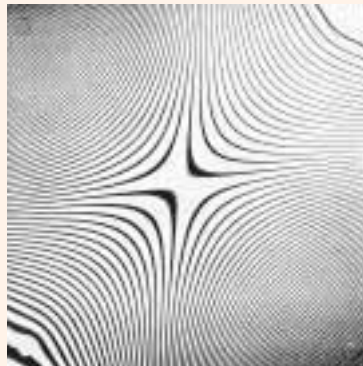
定年があつという間にやってきたというのが実感である。私が本学に赴任したのは、昭和54年4月で、本学が設立された翌年である。当時は未だ大学は建設中で、構内では業者が雪でも雨でも建設工事を行っていた。しかし、建物は完成せず実験装置は整わなくても学生はどんどん入ってくるので、カリキュラムで定められている機械工学実験を行わなくてはならない。引張り試験機と衝撃試験機は企業や他大学から古い装置を譲り受け、何とか工学実験のテーマを作った。ところが、引張り試験に使う試験片を作る機械工場は当時まだできていなかった。仕方がないので、私がそれまでに勤めていた都立大学で作った試験片の余りを車で東京まで取りに行つて実験に間に合わせた。

その中で私が特に苦心したのは、レーザホログラフィによる立体写真撮影と微小な変位測定である。装置はすでに私が赴任する1年前に購入されていた。ある教授が、君はX線をやっていたのだから、レーザもX線と同じだからうちの装置を使ってレーザホログラフィをやれというのである。そのホログラフィ装置は、実験室の片隅に埃を被って放置されていた。長い間放置されていたためか、最初はなかなかレーザが発振しない。ホログラフィは除塵台上に設置した装置で物体の立体像を特殊な写真乾板で撮る技術である。レーザはそのうちに発振するようになったものの、いくらやっても物体の像は乾板に写らなかった。ある日、深夜までいろいろと工夫しながら実験をやってもうまくいかず、また今日もだめかと、帰ろうと思って最後の乾板を現像したところ、みごとな鮮明な立体像が写し出されていた。私は思わず暗い静まり返った実験室の中で万歳と叫んだ。深夜12時過ぎであった。

当初はまだ実験室の周辺は工事中で、暗くなるまでかなり騒々しかった。ホログラフィはレーザ光の干渉によって得られる像を記録する技術であるので、レーザ光の波長の数分の1、すなわちサブミクロンの震動でも鮮明な干渉縞は得られず、床の上に設置した定盤では干渉に必要な十分な震動除去ができない。周りが寝静まってからやっと鮮明な像を撮ることができたのはこのためである。

建物ができると、次は各部屋に入れる什器を発注しなければならぬ。何しろ機械系すべての部屋に入れる膨大な数の什器を選定し、そのリストを期限までに会計課へ提出しなければならぬ。分厚い什器類のカタログを机の上一杯に積み上げて、毎日のように購入する什器のリストを作った。この仕事には私もつくづく辟易した。

これまでにやっ



1.8gの荷重による250×250×1.2mmのアルミ板の変形を示すレーザホログラフィによる干渉縞

た研究で私が最も満足しているものは、ガウス曲線法によるX線応力測定法の提案と、これができる自動X線応力測定装置の開発で、本研究室では現在まで長年これを使ってきた。X線応力測定の主目的は残留応力の非破壊的測定で、ピーク位置とよばれる回折線の位置から応力値が計算できる。この測定法を私が最初に提案した今から30数年前の当時、わが国ではもっぱらペンレコーダに描かせた回折線を半価幅法と呼ばれる作図法によってピーク位置を求めていた。この頃米国では、ミニコンがX線応力測定データの処理に用いられるようになり、半価幅法に代わって回折線の上部を放物線で近似してピーク位置を求める放物線法が広く用いられるようになった。しかし、最小二乗法による煩雑な放物線の計算を避けるために、3点から放物線を決定する3点放物線法が最も広く用いられていた。

これに対して、私は一般的にn個の点($n \geq 3$)から回折線を近似した放物線およびガウス関数を迅速に計算できる式を導き、これによって応力計算に必要なピーク位置のみならず材料評価に用いる回折線の広がりも同時に求まるようになった。この計算法は、当時私が都立大学で助手をやっていた頃、入ったばかりの大型計算機を使って、最小二乗法によるガウス関数の計算に必要な5~8桁の数値の累乗和を要素にもつ行列式をフォートランを使って計算していたときに、同じような多くの累乗和の計算を単純化できることに気が付いたためである。

この式が最も役に立ったのは、この式に統計学の誤差伝播の法則を適用することによって、X線応力測定の一つの大きい問題であったX線強度固有の統計変動に起因する応力測定値のばらつきを大きさを表す標準偏差を、一回の測定で応力値とともに求める式を導けたことである。X線応力測定で応力値の標準偏差が一回の測定で解析的に求まるというこの理論は、当時のわが国の学会ではなかなか理解してもらえなかった。将来はこの方法が、広く用いられるようになると私は信じている。

これまでの人生で私がやっておいてよかったと今も思っていることの一つにスポーツがある。これを特に若い学生諸君にお勧めしたい。長い人生の間には、自分の仕事に行き詰まるのが何度かある。そのようなときに自分を救ってくれるのが趣味である。趣味は何でもよいが、私は体の健康を合わせ考えると、スポーツが一番よいと思っている。

在職中に私が担当していた材料力学、弾性学およびX線材料強度学の講義録に基づいて教科書を書きたいと思っていたが、果たせなかった。退職後は、これらの仕事を完成させたいと考えている。

最後に、これまでいろいろとお世話になった本学の教職員の方々に厚くお礼を申し上げるとともに、本学のますますの発展を祈っております。



開発した自動X線装置

退職にあたって

ありがとうございました。

退職にあたって

松田 甚一（電気系 教授）

退職を目前に控えて、まさに、有名な古歌の「ついでに行く道とはかねて聞きしかど、昨日今日とは思はざりしを」の心境です。

昭和54年の春、開学2年目の本学に赴任して、気がつけば、あっという間の20数年でした。その間、教職員の皆様方また学内外の方々にお世話になりましたことに、この場をお借りして、深く御礼申し上げます。御礼をかねて、小生にとって思い出深い研究や、やり残した仕事そして雑感などを少しだけ綴らせていただきます。

まず、 μ オードのギャップ領域を有する磁気ヘッドの空間漏れ磁界分布の三次元画像化計測です。これは断層撮影法の原理を利用して磁界分布を三次元的に再構成する方法ですが、非線形問題を解決する方法がなかなか考えつかず、苦勞しました。幸い国内外に先駆けて高精度計測実験に成功し、今でもこの方法は様々な形で実用化されております。

次に、約十年前から始めた光音響分光法による血糖値の非侵襲計測の研究です。退職を目前に、やっと臨床実験に成功し、臨床検査分野で注目され始めました。計測原理は比較的簡単ですが、生体への安全性からレーザー光出力を数mW以下に抑えねばならず、いかに高SN比を実現するかで苦勞しました。数年前に、回転楕円形状の信号検出セルを考えつき、企業からの問合せや見学も増えてきております。糖尿病は社会的な問題になっており、非侵襲かつ簡便な方法の開発に寄与できたのではと喜んでおります。

最後に、腫瘍の温熱療法において、深部腫瘍の加温は技術的に非常に難しく、新しい加熱器の開発が求められておりました。リエントラント型空洞共振器を利用した電磁アプリケーションを開発して、その有効性を新潟大学医学部の先生方との共同研究で、動物実験により検証できる

段階に来ております。実用化に向けて、解決すべき様々な制度的な壁があり、切齒扼腕しております。退職まであと3年ぐらいあればと残念ですが、際限のないことと諦めております。

自分では、大学を卒業後、何時も新しい仕事に取り組んできたつもりでしたが、振り返ると、磁場計測は、電子光学の応用であり、光音響分光法、リエントラント型加熱器は、何れもマイクロ波の基礎技術の応用と、無意識のうちに大学時代に勉強した様々な知識を援用しながらの研究であったことに気がついて、今更ながら大学時代の勉強がいかに重要であったかと再認識しております。学生諸君には、ぜひ今の勉学を大事にして頂ければと願っております。

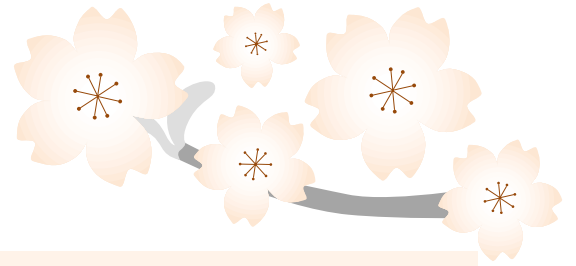
大学を取り巻く環境が大きな変革期を迎えており、様々な改革が進行しておりますが、一時の流れに付和雷同することなく、大学の本来の使命を見据えながら、ぜひ、本学をますます発展させていただけますようお願いいたしております。

最後に、改めて長い間のご厚誼に感謝いたしまして筆を置かせていただきます。



震災数日後、研究室にて

お世話になりました。



退職の弁

鳥居邦夫（環境・建設系 教授）

赴任したのは昭和54年4月1日。その前日に引越し荷物と東京で別れ、家族4人は上越線の特急ときに乗って長岡駅に到着した。その当時の長岡駅は新幹線工事のために仮のバラック作りの跨線橋がかかっておりそこを他の乗客とともに渡って階段を下りると大勢の出迎えの人がこちらを向いてにこやかに笑っている。大学の係員が動員してくれたのかと半ば途惑い、半ば嬉しく思いながらにこやかに手を振ろうとした途端、後ろから『いよっ』という威勢のいい声が響いてきた。びっくりして後ろを見るとそれはなんと角さんが例のとおり、右手を挙げながら颯爽と降り立ったのだった。出迎えの人達はこの人を待っていたのだ。よく考えてみると、一介の助教授の赴任に出迎えの人数を用意することなど有り得ないのにそんな錯覚をしたのはやはり異常心理になっていたせいであろうか。慌てて挙げかけた手をひっこめたものの、気付いた人もいたに違いない。私はそそくさと群衆の陰に隠れて改札を出たものだった。

駅前の広場は今と余り変わりのない景色であったが、違いは歩道には歩くのが不自由になるほどの人で満ち溢れていたことだった。そのとき、駅前に立ち止まった上の息子が呟いた言葉が今でも忘れられない。『あ、新宿とおんなじだ』

新潟というのは人もまばらな場所で、不自由な生活が待っていると子供なりに覚悟してついて来たのだろう。駅頭のただずまいを見てきくと安堵の胸をなでおろし、それがこの言葉になったに違いない。清水から飛び降りる決心をしたのは我々夫婦だけではなく、子供たちもまた同じ思いで特急列車に乗ったに相違なかったのだ。発った駅は東京駅ではなく、上野駅の薄暗いホームだったのだ。

平井初代副学長から上司を通じての話があっ

たとき、根っからの楽天家の私はそれに乗るのも人生と前向きの気持ちであったが、東京生まれで東京育ちの家内にとって東京を離れることは私よりずっとその意味は大きく、反対されることを覚悟してその話を切り出したものだが、案に相違してその話に家内の方が積極的になり、是非一度長岡を見に行こうと言い出したのだ。後で分かったことなのだが、その頃の東京では東海地震がいつ東京を襲ってもおかしくないという報道で満ち溢れ、人々が言い知れぬ不安に駆られていたので、皆が東京を離れたがっており、家内もその一人に過ぎなかったのだ。

そんな顛末でやって来て早や26年。こんなに退職が早くやって来たのは信じられない。まさに一炊の夢である。



研究室 BBQ 大会の一コマです。誕生日とちょうど重なったので、パーセセレモニーをやっているところです。

退職にあたって

ありがとうございました。

長岡での5年間

向井 幸男（環境・建設系 教授）

私が長岡技大に来ましたのは丁度5年前（00年4月）ですが、それまで（財）リモート・センシング技術センターというところで衛星リモートセンシングデータの実利用を進めるための研究・開発や普及の仕事をしていました。こちらに来るときに5年間で何が出来るかなと思っていましたが、来てすぐリモートセンシング技術の研究に熱心な助教授や助手の人に来ていただき、環境リモートセンシング研究室というのを発足させることが出来、私の退職後もリモートセンシング技術の研究と教育の灯が長岡でもし続けられてゆくだらうと期待できますので、私が来た意味もあったかなと考えています。大学での生活を振り返って感じますのは、授業で学生に興味を持って話を聞かせるのは難しいなということです。はるか昔の学生時代、非常に穏やかな先生の授業が1時間目にあって、私が一番前の先生の目の前の机に座ってすぐ寝てしまい、授業が終わって目が覚めたときに、その穏やかな先生が一言「授業の間ずっと寝ていて今起きた学生がいる」といわれたことを今でも覚えています。あのときの先生の心境が今痛いほど分かります。

この5年間で一番楽しい思い出は、技大の先生と職員の方のゴルフの会である悠球会に入れていただき、皆様とゴルフを楽しむことが出来たことです。最初の悠球会の集まりに出たとき、確か6～7組の出場者があり、技大にはゴルフの好きな先生が多いんだなと頼もしく思いました。以来、悠球会は年4回ほど開催されますが、たまたま学生時代の同級生とのゴルフコンペとかあったために1度欠席しただけで、全部出させていただきました。こちらにいる間に一度くらいは優勝したいなと思っていましたら、去年の5月にハンディを元に戻して行うという大会

があって、そのおかげで優勝することが出来ました。単純に喜んでいる写真を見てやってください。また大学での期間が比較的短い私には悠球会を通じて他の系の先生方と知り合うことが出来たこともよかったと思っています。今後も出来るだけ悠球会の集まりには出席したいと考えています。

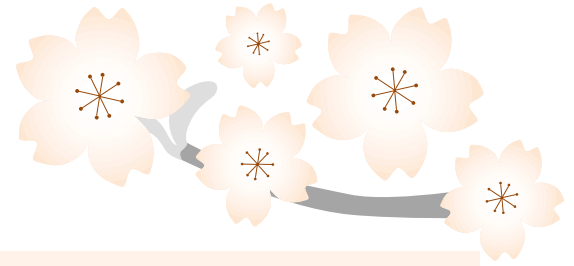
私はこれまでずっと東京で住んで来ましたので、長岡で冬を過ごしたことが、特別な感興を持って思い出されるでしょう。特に来た年の最初の冬には、歓迎するかのように大雪があり、教授会で今年は15年振り的大雪ですと説明があったのを覚えています。天気の良い冬の朝、深沢宿舎から大学へくる途中の白一色の景色は忘れられないでしょう。冬が寒ければ寒いほど、春を待つ思いは熱くなり、長岡での冬を経験することにより、時の経過を意識する思いは深くなったように感じられ、長岡での5年間はこれまでに比べ、濃密な時間であったように思い出されるのではないかと感じています。

長岡での5年間を楽しく過ごすことが出来ました。これもひとえに皆さまの温かい心のおかげだと思っています。有難うございました。



悠球会で優勝(2004年5月15日)

お世話になりました。



遅ればせながら

松野 孝一郎 (生物系 教授)

知能の果たす役割によろやく、思いをめぐらすことが出来るようになってきました。

学校を卒業、修了してからほどなく、消費者と生産者のかかわりに興味を覚え、それが今現在にまで続いています。経済学の標準的な教科書を見ますと、消費者と生産者は対等ですが、実際の経済界では生産者である企業が圧倒的な支配力を持っています。そうでありながら、隠然とした巨大な影響を及ぼすのは消費者ではないのか、というのが一貫した関心事でした。

生産者が支配者ですと、経済秩序は土農工商に行き着きます。この場合、土は官僚機構を指します。ところが、生産者と消費者の関係が逆転しますと、商が頂点に立ちます。商いの現場は、商人と消費者でもある別の商人との間のかげひきです。特に先物売買では、世界に誇るものが日本にあります。江戸時代中期に大坂堂島の米会所で米の先物取引が始まりました。世の東西を問わず、最初に生まれた先物市場が堂島の米会所です。この市場の最大の特徴は、カラ売り、にあります。ある米問屋から米を借りて、それを市場で売り飛ばし、将来米の値段の下がったところで米を買い戻し、借りた米を返済する、とするのがその取引の特徴です。

カラ売りは一つ間違うと大変なことになります。売り飛ばした後に米の値段が下がらなければ、借りた米を売った商人は破産に直面します。しかも、勤勉な生産を推奨する倫理観から眺めますと、消費者でもある商人がカラ売りを介して利益を得ようとするのは、決して誉められることではありません。ところが、この先物取引を物質交換運動の一例と見なしますと、その源は地球上での生物の起源にまで遡ります。

最初に出現した単細胞生物は生きて行くために食べ物を探し回ります。その探し回りには予

め体に蓄えておいた栄養物を消費します。その使い果たした分量を超える新たな食べ物を探し当てたときにのみ、その生物の生存が可能になります。事前の保証はありません。将来を見越して、果敢に現在の消費活動に関わるとするところに、生物運動、行動の最大の特徴があります。

ここで浮かびあがるのは、将来への保証が不明のまま、現在の活動を支援する手立てに何か気の利いたものはないのか、です。われわれの誇る知識では、帯に短く、たすきに長し、となります。知識は将来にも通用する不変さを性急に要請しながら、それへの保証を絶えず後回しにします。ここに知恵、知能が登場します。知能には、知識を超えて行くだけのゆとりがあります。失敗を認める、との潔さがそれです。ところで、自らの失敗を認めるのにやぶさかでない知能は、それだけで一本立ち出来るのでしょうか？これは、もちろん、これからの私自身への問いかけです。



退職にあたって

ありがとうございました。

退職にあたって思う事々

山元 皓二 (生物系 教授)

長岡技術科学大学に赴任して14年が経過しました。赴任当時は十分に時間があり一仕事できると思っていたのですが、瞬間に時は過ぎ去り退職を迎えました。どれほど初心を実現できたのかと思うと、忸怩たるところがあります。

それにしましてもこの14年間は65年の人生の中で激動の時代でした。大学時代の60年安保、学生運動、そして大学院学生から大学助手の初期における70年安保と大学闘争の時代も忘れられない変動の時期でしたが、長岡時代の14年間はそれ以上と感じています。

1991年1月4月から長岡技術科学大学に赴任することが決まり、生物学の非常勤講師として授業に来校したときに、湾岸戦争勃発を学生食堂のテレビで知りました。赴任してからオウム真理教事件、ベルリンの壁の崩壊に象徴される社会主義国の凋落と東西冷戦構造の氷解、9.11同時多発テロ、イラク戦争の勃発と自衛隊の派遣など社会と平和を考えさせる出来事でした。

また、大きな自然災害として10年前の淡路阪神大震災、昨年身近に起こった水害と中越地震、まだ記憶に新しいスマトラ沖地震の大津波などには安全と危機管理体制の確立について再考させられました。

大学の在り方も大きく変化しました。ここ5、6年の間に大学への社会的要請は変化し、自己および外部評価など自己点検と変革に力を入れなければならなくなりました。そして、1年前には国立大学から国立大学法人に変わり、生き残りをかけた競争の時代に突入しました。過去に問うた大学の在り方とは全く違う形での変革であり、考えを整理できないままに戸惑いの中にいます。

技術の革新もすごいものでした。パソコンの進歩と携帯電話の普及、それを利用した生活の

大変革にも、携帯電話を持たずに取り残されています。生物技術も医療や食料や環境などの分野で大きく発展し、成果の社会的受容を巡り議論がなされ、自らが専門とする分野での技術の質がいま問われています。

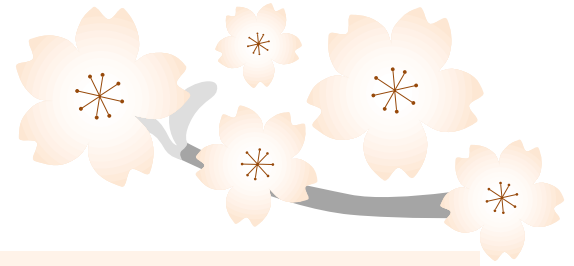
ゲノムの解読は予測よりも10年程度早く進行し、単純な生物のゲノムだけではなくヒトやイネをはじめとしてすでに100種程度が完了しています。それに刺激され生物学全分野の研究が活性化し、ゲノムを中心とした生物学の再編が行われようとしています。新たな展開に心が踊る反面、どこまでついていけるかと不安がよぎります。

20世紀末から21世紀初頭にかけての激動のいずれにも充分に対応できていない自分に満足できないままに、多くを若い方々に残した形になったことを申し訳なく思いながら、退職することになりました。心からの「有り難う」と「お願い」と「健康で活躍を」を別れの言葉と致します。



研究室ゼミ旅行において

お世話になりました。



プラズマと私

八井 浄

(極限エネルギー密度工学研究センター 教授)



「人間万時 塞翁が馬」という諺があります。物事は、自分の境遇次第で良くも悪くもなるから、地道な精進が必要だと言う意味です。私は定年退職にあたり、これを実感しています。ここで反省を込め、歩みを振り返りたいと思います。

私は、高校生の時にプラズマという言葉に魅せられ、この道に飛び込みました。プラズマによる核融合です。次代のエネルギー源である核融合、即ち、太陽を地上に実現しようとする夢です。大学院生の頃は、低気圧グロー放電を用いて、波動によるプラズマ加熱を研究しました。しかし、所属した研究室の専門が物性関連だったので、半導体やレーザーに触れる機会も多々ありました。炭酸ガスレーザーをガラス細工で発振させたり、半導体の超音波増幅にヒントを得て、ガス放電中の超音波増幅を例証しました。これらの経験は、後の研究に大いに役立ちました。

助手に採用された(昭和42年)途端、急に講座の先生が外国に出る事になったため、助手一人の状態(配属学生も殆ど無しで)、11年間を過ごすことになり、大学で助手一人が生きて行く惨めさを味わいました。しかし、ビーム・プラズマ放電、電子サイクロトロン波、パラメトリック不安定性によるプラズマ加熱などで米国の一流学会誌に掲載されたり、学会等で発表して大きな科研費が交付されたりして、外

部との交流が広がり(一人だけに余計に)、認知されるようになりました。このような人的交流が後で大きな力になりました。

昭和53年に本学に赴任し、従来の研究を離れ、新しいことを始めようと考えました。図書館に籠って集めた情報から、パルスパワー工学の勃興を感じ取りました。パチンコ玉を集めてマルクス発生装置の試作器を作り(30cm四方)、パルス高電圧を発生して感動したのを思い出します。パルスパワー発生装置設置を種々の会議で提案し、何度も失敗しましたが、遂に合意を得るに至りました(パルスパワー発生装置“ETIGO-I”設置(昭和55年))。その後、粒子ビーム工学センター設置(昭和59年)、“ETIGO-II”設置(昭和61年)、材料分野への展開(平成2年頃)、“ETIGO-III”設置(平成8年)、極限エネルギー密度工学研究センター設置(平成11年)、“ETIGO-IV”設置(平成12年)と矢継ぎ早に進展するに至りました。「求めよ。さらば与えられん」は私の信条ですが、「天の時、地の利、人の和」の賜物でもあると実感しています。最後にこのような機会を与えて頂いた関係各位に深謝すると共に、本学の益々の発展を祈念します。長い間有難うございました。



国際会議「BEAMS 2000」開催(筆者は下段中央)

退職にあたって

ありがとうございました。

地震で始まり地震で終わる

山田 信義 (施設管理課長)

昭和39年6月16日午後1時過ぎ、新潟地震が発生した。私はこの年の4月に新潟大学施設課に奉職した。勤務して2ヶ月後のことである。大学附属病院も停電したが電力会社とかけあい、当日の夜には電気も復旧した。ピカピカ(?)の1年生であった小生は大学の様子もほとんどわからなかったが、当日は附属病院に泊り込み、ライフラインの復旧や安全確認に走りまわった。

その後筑波大学、国立民族学博物館勤務を経験し、平成14年4月に本学に着任した。平成16年10月23日、退職5ヶ月前には中越地震に見舞われた。50時間を超える停電、ガス・水のストップ、施設設備の点検・安全確認など施設管理課は一丸となって復旧作業に向け走り回ったが、新潟地震を遙かに上回る教育研究への障害を味わい、改めて大学は知

的創造活動の拠点として、しっかりした施設設備を確保することが重要であることを強く感じた。また、一方では弾力的・流動的に対応できるスペースの確保により長岡高専の受け入れや学生支援センターの設置などができたと思っている。

私の40年間の公務員生活は、地震で始まり地震で終わろうとしている。「小粒でもキラリと輝き続ける長岡技術科学大学」が大地震の体験も活かして、更に施設設備の整備充実・有効活用を進められ、しっかりした教育研究基盤を確保されることを念願している。



退職にあたって

細貝 寧 長 (学務課技術班技術長)

定年退職、遺暦、年金生活等この様な事は他人事で自分には関係ないと思っていましたが、3月末で定年を迎える事になりました。新潟大学工学部の勤務より公務員生活が始まり、昭和54年4月から本学に転任となり、26年間無事に勤務できましたのも皆様方の暖かいご指導とご厚情のたまものと深く感謝申し上げる次第であります。

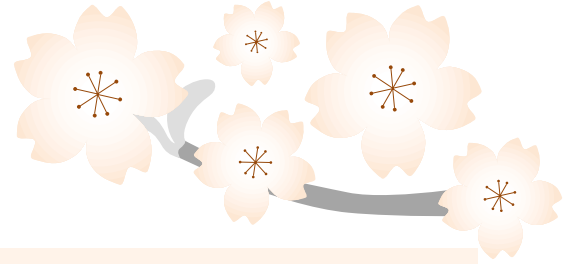
当時の本学の建物は機械系では1号棟と4号棟が完成しておりましたが、実験棟は建設されておらず実験を行う事が出来ず、3号棟が55年3月末に完成すると同時に3号、4号棟で教授以下一丸となって2年間分の学生実験をあわただしく夜遅くまで行った事が懐かしく思い出されます。また創立当時の本学は新構想大学として発足し、教官の構成を見ますと教授の先生方は大学及び企業等

の出身者の割合が半分位だった様に記憶しており、非常に新鮮で活気に満ちた雰囲気であったことが昨日の事に思い出されます。

私は前勤務校から一貫して材料強度関係の研究室で仕事をさせていただき、又海外出張など貴重な経験をさせていただき非常に感謝しております。尚、現在の心境は退職を期にV O Sの1から読み直して見ようかと思っております。最後に、長岡技術科学大学の益々の発展と、教職員皆様のご健康とご活躍を心よりお祈りいたします。ありがとうございました。



お世話になりました。



保健室勤務の思い出

若月トシ（学生課 技術職員）

この長岡技術科学大学の建物が次々と完成していくのを遠くから眺めていた頃がありましたが、ご縁に恵まれて昭和56年6月に創設間もないこの大学に採用され、定年を迎える事ができました事は皆様のお力添えのお蔭と深く感謝申し上げます。

最初の頃はどのように保健室業務を行っていたらよいのか戸惑っておりましたが、三宅先生のご配慮で東京大学、東京農工大学の保健管理センターへ研修出張させて頂き、センター業務の実際を把握する事が出来、その後の仕事の遂行に非常に有意義であった事を記憶しております。

また、当初は保健室の設備も不十分で各種の測定検査機器や医薬品等の購入、健康診断票等の書式の作成等を三宅先生、学生課の担当者と検討しながら徐々に整備していった頃をついこの間の事

のように懐かしく思い出しております。

その後、全国又は関東甲信越地方部会の大学保健管理研究会に出席させて頂き、他大学の保健管理に携わっておられる方々との交流、情報交換は忘れられない思い出として心に残っております。

これまで三宅先生始め、多くの皆様にご指導頂きお世話になりここまで歩んでくる事が出来ました事を心から厚く御礼申し上げます。

最後に、この長岡技術科学大学の発展と皆様方のご健康をお祈り申し上げます。



大学紹介ビデオ(DVD)が完成しました

広報委員会 ビデオ企画コア

大学紹介ビデオを約10年ぶりにリニューアルしました。

下に示すように、対象者別4篇のほかに高専生を意識した2篇、学長メッセージ、トピックス(学部教育など内容ごとに再生)の計8篇を収録しています。

- ・高校生・高専生の方へ
- ・For International Students
- ・市民の方へ
- ・産業界の方へ
- ・僕のキャンパスライフ
- ・高専生のオープンハウス
- ・学長からのメッセージ
- ・トピックス



本学を魅力的に紹介しています。様々な場面で、積極的にご活用ください。

卒業・修了おめでとう。



平成16年度 **卒業・修了者数**

工 学 部	卒業者数	大学院工学研究科			
		修 士 課 程	修了者数	博士後期課程	修了者数
創造設計工学課程	3	機械システム工学専攻	57	情報・制御工学専攻	4
機械創造工学課程	108	創造設計工学専攻	47		
電気・電子システム工学課程	1	電気・電子システム工学専攻	59		
電気電子情報工学課程	118	電子機器工学専攻	37	材料工学専攻	12
材料開発工学課程	59	材料開発工学専攻	39		
建設工学課程	40	建設工学専攻	40	エネルギー・環境工学専攻	4
環境システム工学課程	48	環境システム工学専攻	51		
生物機能工学課程	44	生物機能工学専攻	39		
経営情報システム工学課程	35				
計	456	計	369	計	20
		論文提出により学位を授与されたもの			9

編集後記

大学卒業，大学院修了の皆様，誠におめでとうございます。大いなる夢と希望を胸に抱き，新しい道を歩まれる皆様に，心からお祝いを申し上げます。また，退職される教職員の方々には，これまでのお仕事に対して，厚く御礼申し上げます。

昨年10月23日に起きた新潟県中越地震では，これまでに経験したことのない事態に見舞われました。その困難を乗り越えてこの日を迎えられたことには，感慨深いものがあります。地震を乗り越え精神的に一段と逞しくなられた皆様が，社会に出られてから尚いっそう飛躍されることを期待しております。本学の座右の銘である“VOS”の精神を活かして，社会でご活躍されますことを祈念いたしております。

ご卒業，ご修了，誠におめでとうございます。
(編集委員)



VOS126号(平成17年3月)
編集発行/長岡技術科学大学広報委員会(総務部 総務課)
*本誌に対するご意見等は下記までお寄せください。
〒940-2188 長岡市上富岡町1603-1
Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000
E-mail skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp
U R L : http://www.nagaokaut.ac.jp/